



▲地球をイメージした作品「ガイア」

# 市内で活動するガラス工芸家 奥野 いづみ さん

## PROFILE

おくの いづみ(48・女岩区)  
 石川県出身のガラス工芸家。1ター  
 ン者。作品は自然にふれあい感動し  
 たものを形にすることが多い。

## 七色の地球

あるテレビ番組の冒頭に登場する、七色に美しく輝く地球のガラス細工。これは奥野いづみさんの「七色のガイア」という特別な作品。もともとは青色の地球をテーマに作った作品が、雑誌に取り上げられたことをきっかけに番組で使われた。幼少期に海外の豊かな自然の中で暮らした経験からこの作品が誕生した。

## ガラスとの出会い

奥野さんは、出身地である石川県の短期大学で、デザインや服飾などさまざまなことを学んだ。その中にスタンドグラスの授業があり「ガラス」の魅力に心を奪われた。「ガラスの輝きや透明感を生かし、自分のイメージを形にしたときに喜びがある」と話す。

短大卒業後は、迷わずガラス工芸の道へ。伝統工芸が集まった施設で8年間の経験を積んだ後、山梨県に活動拠点を移し、さらに12年間の経験を重ねた。そこで友人から「独立して御前崎の工房を使わないか」と声を掛けられた。実際に御前崎を訪れると、海や

緑などの自然の素晴らしさと地域の人柄に魅了され、移り住むことを決めた。

奥野さんの作品は、約1300度に熱せられたガラスを宙空で吹きながら作りあげていく。ガラスは、温度を保ちながら一晩つきっきりで溶かす。夏場の工房は40度を超える暑さになる。「作業はとも暑くて大変。自動でガラスを溶かしてくれる機械もあるが、寝られなくても小まめに付き添いながらガラスと向き合いたい。何よりも作る一つ一つのプロセスが好きなんですよ」と笑顔で語る。

## 気付きが作品の幅を広げる

普段から地域の活動にも参加し、人との交流を大切にしている奥野さん。「ガラス工芸の素晴らしさを多くの人に伝えたい」と市のイベントなどでは体験会も開催している。「御前崎の人が好きだからもっと地元の人と触れ合いたい。触れ合うことでたくさんの気付きが得られる」と話す。幅広い世代との交流による新たな気付きが視野を広げ、より一層素晴らしい作品ができることに期待したい。